

始業式での校長講話の後編です。

4月8日（月）の始業式での校長講話（約10分間）の後半部分です。

4月8日の始業式での校長講話 ー後編ー テーマ：「キャリアガイダンス」

- 板書計画を作っても授業をしても、私が板書をしている間は生徒の頭が動いていないことに気づき、ノートに貼れる**独自プリント**を作ったこともあります。理解すること、自分のものにすることが大事だと思っていたので、作ったのは穴埋めプリントではなく資料集です。さらに発展させた『**スーパー日本史ノート**』と題した教材も、印刷製本して生徒に配りました。当時の私のライバルは予備校のスーパー講師たち。受験指導が得意で、何度も高3の担任をしました。
- 一生懸命やっているとそれを見てくれている人がいて、次のステップが拓けます。先輩教員から「**実践をちゃんと発信したほうが良い**」と言われて、『スーパー日本史ノート』を使った授業を公開したことがきっかけとなり、**書籍の執筆**をするようになりました。
- 今の時代は、発信ツールが充実しています。論文でも、SNSでも校内の通信でも、なんでもよいので発信することを先生方には勧めています。そうすればあなたの良いところを認めてくれる人が、必ず現れるはずですよ。
- 教師としての可能性を広げ、キャリアを形成していくためには**実践を磨くこと**、そのための**インプットも必要**です。本校の先生方には、学校という狭い枠を飛び出そう、積極的にセミナー等に参加しよう、と声をかけています。教科に関するものだけでなく、趣味やビジネス、なんでも構いません。
- 私の場合は、日本史の教員として**臨場感**をもって伝えるためにと史跡や博物館に通い、**旅行**が趣味になりました。登山部の顧問になったことから**登山**にも打ち込みましたし、**ガンダム**のプラモデル製作にハマったこともあります。それらすべてがどこかで生かせるのが教師という仕事です。私が提唱している**AAI（アート・アクティブラーニング）**の発想も、**マシンガンZ**から**エヴァンゲリオン**までのアニメや、ガンダム作りから学んだことが生きています。AAIは、人工知能の発達する時代において、左脳の知識重視の教育だけでなく、アートやデザインを通して**クリエイティビティや感性**を育てることが大切との発想からです。本校の先生方は、**漢詩を絵で表現する授業**など意欲的に取り組んでくれています。
- ずいぶん好きなことばかりやってきたと思われるかもしれませんが、どんなことであれ学ぶことをやめるのは教師としてありえません。**なにかに夢中になって学ぶアクティブラーナーが、次のアクティブラーナーを育てるのだ**と私は信じています。今は変化の時代ですが、**世の中が変わる時は自分も変わるチャンス**です。みんなが試行錯誤する時代だから、人と違うことをやっても大丈夫。誰もが願う「**より良く、もっと、幸せに**」という自分の気持ちに忠実に生きませんか。私自身も発展途上です。もしもう一度、教壇に立つことができるなら、思いっきりアクティブな日本史の授業をしたい、そう思っています。

- 以上が、記事の内容でした。1つでも皆さんの心に響く部分があったとしたら、とても嬉しいです。さて、本校は、明日の入学式で**12回生160名**を迎えます。**平成時代**は、今日を入れてあと23日で終わり、5月1日には、**令和時代**が始まります。本校も、開校12年目の新たなスタートをきりたいと思います。**みんなで、力を合わせて、いい学校をつくっていきましょう。**以上です。ありがとうございました。

